2025年度　上　期

２０２６年　４　月　４　日

みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人　ペット終活サポートネット宮城	
代表者名	代表理事　齋藤　まり子	
連絡先 TEL：０８００－８０８－０２１５ FAX：０２２－３９９－２４８４		E-mail　： miyagi.pet.shukatsu@gmail.com

１、助成事業報告

助成を受けた事業名	いくつになってもペットと安心して暮らすためのサポート・システム調査研究事業
事業の目的	宮城県内の高齢者とペットに関する現状と課題を明らかにするとともに，先進事業や先行研究を参考に，地域に応じたペット共生のサポート・システムのアイデアを得ること，またその理解者や協力者のすそ野を広げることを目的とした参画型の調査研究活動をする。
事業の具体的内容	調査研究活動は，年間を通した「ペット共生勉強会」の活動の一環とし，様々な専門分野や関心のある方々とのネットワーク作りの機会とした。 調査研究の内容は、次の３方向から実施した。 １　公開勉強会の開催 （1）宮城県の実態調査研究関係（報告会） （2）全国の先行事例の研究（講演会・シンポジウム等） （3）飼い主向け勉強会(講演と地元交流会) ２　アンケート調査 ペット共生の課題や希望について、飼い主や関係者からの意見を調査 ３　研究のまとめと行政への提案や報告
活動の開始から完了までの流れ	１　公開勉強会 （1）宮城県の実態調査研究関係

	①9 月 21 日(日)「宮城の現場の声を聴く会」 病院現場、保護活動団体からの事例報告 ②10 月 19 日(日)「先進事例宮城にもあったらいいなを語る会」勉強会参加者からの情報収集報告 （2）先行事例の勉強会 ①11 月 24 日（月祝）講演とシンポジウム「高齢者とペットのサポート最前線～人と動物の福祉を両輪　で」安野舞子氏（横浜国立大学） シンポジウム「宮城野現場から動き出す～地域の課題と希望」 松田聡子氏（にじのはしスペイクリニック宮城分院）/佐藤真貴子氏（高齢者とペット問題を考える『まるの会』）/横田昌宏氏（一社仙台猫団体連悪協議会『ねこ連』） ②2 月 3 日（火）講演「人にも動物にもやさしいまちづくり～滋賀県『こうが人福祉動物福祉協働会議』に学ぶ」 田中ヒロヤ氏（滋賀県動物愛護推進員）、 吉田時子氏（滋賀県動物保護管理センター） （3）飼い主向け勉強会 12 月 27 日(土)「お金とペットとあなたの将来考えませんか？＆地元関係事業者ひろば」飯田久枝氏（アニマル・ライフ・デザイン）、白岩留美子（行政書士） 2　アンケート調査 ペット共生勉強会参加者及び SNS を通じたオンライン調査（主に飼い主や勉強会参加者からの声） 3　研究のまとめ （1）行政への提案 12 月 8 日「高齢者とペットの支援を重層的支援体制事業に位置づけるための提案書」提出 次年度も継続して協働会議の場を設けてくれるよう、準備提案予定。 （2）アンケート調査のまとめ→1 月オンライン会議。 課題と希望について意見集約 ３月４日行政との協働会議に向けた事前準備会 「人と動物生活支援研究会～人と動物四方由協働会議」の提案と研究会の発足 →４月以降、アンケート結果や行政との定例会議を提

	案予定 ※本助成金は、講師謝金・交通費を支援いただいたので、２月の公開勉強会と、それを受けた３月の事前準備会の分までをまとめ、完了とする。
活動の成果と教訓	高齢になってもペットと安心して暮らすためのサポート・システムを調査研究することを目的に、「ペット共生勉強会」を 2025 年 6 月から立ち上げ、3 月まで計 13 回継続的に実施した。 **＜参加者について＞** このテーマに関心を示して参加した人数は、のべ 200 名に達した。オンライン、公開型勉強会はアーカイブ配信も行い、そのときの勉強会に居合わせられない方々も、遠くは青森県や東京、神奈川県、宮城県でも仙台市外の方など関心を示して参加してくれた。固定メンバーの他に、勉強会の毎回のテーマに合わせて参加者も変わっていることも特徴的だった。 参加者は、犬猫の飼い主のみではなく、人の看護師や病院勤務者、地域包括支援センターや訪問介護、訪問医療関係者、民生委員や宮城県の動物愛護推進員、動物取扱関係業者、動物専門学校教員、動物の保護活動家など、動物だけではなく、人の福祉に携わる方々が多かった。年代は 40～50 代が多くを占めたが、次いで 60～70 代の参加者も多かった。 それぞれの現場や立場から、「高齢になってペットと安心して暮らせない現状」に課題を感じている方々がほとんどで、なんとかしたいと思う方々だった。 **＜公開勉強会＞** **１　現状を知る会** 助成を受けた９月～10 月は、参加者が携わっている現場の現状や課題を報告しあった。特に猫の保護団体が関わった高齢者の飼育崩壊の実態や保護活動、行政との関係、多頭飼育崩壊現場の支援などの報告。病院の地域連携室からから、ペットがいることで治療や入院を拒否する患者とペットの行き先を確保しきれず遺棄、交通事故死などの悲しい結末の事例も報告された。 高齢者とペット問題として、全国的に社会課題として報じられていることが、ここ宮城でも例外なく多々あること、またそれぞれの立場で精一杯対応しても、防ぎきれないもどかしさが伝わってきた。この現状を踏まえつ

	つ、他県ではどのような解決策を展開しているのか、調べて報告しあった。 **２　先進事例を学ぶ会** 11 月～２月は、飼い主の自助は前提だが、自助だけでは足りない現状を受け、共助・公助が他県ではどう行われているのか、先進事例を学ぶ機会とすることができた。 **（１）人と動物の福祉両輪で～公助・共助のサポート・システムとは** 11 月の講師安野舞子准教授（横浜国立大学）による「高齢者とペットのサポート最前線～人と動物の福祉を両輪で」は、全国調査をもとに、高齢者とペットが最期まで共に暮らし、かつ人と動物両者の福祉が守られているサポート体制の好例を具体的に紹介していただいた。会場は涙する人など熱い雰囲気に包まれた。 「高齢者とペットの間に横たわる問題はすべて人間の問題」地域社会とのつながりが希薄になっている今こそ、多職種、多機関、多様なリソースとの連携を構築し、「『地域共生社会』を全国津々浦々に広めたい」と安野先生の熱い想いを会場全体で受け止めた。 宮城で始動しはじめた３名のシンポジストの話にも多くの共感が寄せられた。 アンケートから：「人も動物も幸せになれるのがゴールであること」「独居高齢者が多くなる中で、最期の迎え方を考えさせられた」「ペットの福祉に関する国内、県内の状況を示してくださり、とても心強く感じた。その情報をしっかり活用したい」など。 （２）**人にも動物にもやさしいまちづくり** **～滋賀県・甲賀市の実践に学ぶ～** 11 月の安野先生の講演を機に、自治体の「早期発見・早期対応」の多機関・多職種連携のしくみの好例として紹介された「こうが人福祉動物福祉協働会議」の設立者の１人である田中ヒロヤ氏をご紹介いただき、２月には、急遽講演会も実現した。 この協働会議が、全国の先駆的好例として注目を集めており、行政と民間、人福祉と動物福祉が連携し、動物の問題を「動物部署だけの課題」にせず、人の「生きづらさ」の問題として捉え、早期発見と未然防止、人材育成や若い世代へのアプローチなど、現在進行形で進化し

	ている行政の実例をたくさん紹介いただいた。 　参加者からは、「目からウロコ」「こんな視点があるのか」と新鮮な驚きの声が寄せられた。「微力でも無力ではない」「無理なくできるところから」 　この言葉を胸に、ここ宮城県・仙台市でも、私たちは動き出せる。そんな高まりと充足感に包まれた研修会となった。 　この２つの勉強会を通して、現状を打破するためのたくさんのヒントをいただいた。本法人の「知らせる」「つなげる・つながる」「自助だけではなく共助・公助へ」ねらいを力強く後押ししていただいた。 **（３）飼い主の自助があってこそ** 　12 月は、飼い主の自助力を高めることをねらいとした勉強会を実施した。未然防止のためには、孤立と生活困窮になることを防ぎたいとのねらいからだ。「お金とペットとあなたの将来を考える」として、地元の関係事業者との交流ひろばも設定した。 　ペットライフの後半生に見通しをもって計画的にお金を貯える方法や、専門事業者をどう使うかなど、アニマル・ライフデザイン社長の飯田久枝氏と、行政書士の白岩留美子氏より、具体的な方法などを紹介いただいた。ペットや人の終活を支援する、地元の８つの専門事業者も資料を集めたり交流したりすることができた。 **３　「現状の課題とあったらいいな」声のまとめ** 　本事業において実施した勉強会（のべ約 200 名参加）およびアンケート調査（ふせんは約 50 件）を通じて、高齢者とペットを取り巻く現状の課題と今後の希望について、多くの声が寄せられた。 主な課題としては、 ・高齢者の入院や施設入所時にペットの預け先が確保できない ・孤立や認知症の進行により、適切な飼育が困難になるケース ・多頭飼育崩壊や遺棄など、未然に防ぎきれない現状 ・医療・福祉・動物分野の連携不足 などが挙げられた。これらは、個別対応では限界があり、未然防止の仕組みが十分に整っていないことを示している。

	一方で、「あったらいいな」として多く挙がったのは、 ・早期に気づき支援につなぐ仕組み ・一時預かりや終生預かりなどの受け皿 ・相談できる窓口やつながり ・人と動物の両方を支える支援体制 であった。 　これらの声は、単なる要望にとどまらず、「人の生活課題」と「動物の福祉」を一体として捉えた支援体制構築の方向性を示すものであり、今後の具体的な取り組みに活かしていく重要な基礎資料となった。 　本助成により、現状把握から課題の整理までを体系的に進めることができた。 **４　研究のまとめ** 　本事業を通じて、「ペット共生勉強会」を軸にした調査研究を実施した結果、助成により専門的な知見の導入と継続的な場の確保が可能となり、以下の成果が得られた。 ・多職種・多分野の関係者が集まり、継続的なネットワークが形成された ・宮城県内における高齢者とペットの課題の実態が明らかになった ・全国の先進事例から、共助・公助を含めた支援の方向性を学ぶことができた ・行政への提案を行い、協働の可能性が具体化し始めた ・「人と動物の福祉を一体として考える視点」が参加者間で共有された 　特に、動物の問題を「動物分野だけの課題」とせず、人の生活課題として捉え直す視点は、今後の地域づくりにおいて重要な方向性であることが確認された。 　また、勉強会を通じて得られたつながりは、今後の具体的な支援体制構築に向けた基盤となるものである。
今後の展望など	今後は、本事業で得られた知見とネットワークを活かし、次の実践段階へと発展させていく。 ・勉強会は継続しつつ、調査研究段階から一歩進め、具体的なモデル事業の検討・実施へ移行する ・アンケートで明らかになった課題をもとに、未然防止・早期発見・支援につなぐ仕組みづくりを進める ・行政との連携については、「人福祉の視点」を軸に据え、動物分野との協働を促進する

	・行政との連携をさらに深めるため、協働会議の定例化に向けた準備を進めている ・「人と動物生活支援研究会（仮称）」を基盤に、多職種・多機関による協働体制の構築を図る ・地域における相談・支援・受け皿機能を段階的に整備し、持続可能な支援体制の構築を目指す 　これらを通じて、「自助のみではなく、共助・公助が支えるペット共生社会」の実現を目指していく。

２、助成金使途報告書

■　収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	１８０，０００	講師謝金、交通費
自己資金	３２，０００	参加費等
合　計	２１２，０００	

■　支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
講師謝金	ペット共生勉強会講師 ①11/24　４名分 ②12/27　２名分 ③2/3　　２名分	１２０，０００	１３５，０００
交通費	講師交通費 ①11/24　２名分（市外） ②12/27　２名分（市外）	６０，０００	７７，０００
合計		１８０，０００	２１２，０００